様 式 Ｃ－７－１

平成　22　年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機　関　番　号　3 2 6 0 4　　2. 研究機関名　大妻女子大学

3. 研 究 種 目 名　若手研究（B）　　4. 研究期間　平 成 21 年 度 ～ 平 成 23 年 度

5. 課　題　番　号　2 1 7 2 0 0 7 4

6. 研 究 課 題 名　《文学》の生存戦略――戦時下日本語文学の再審に向けて――

7. 研 究 代 表 者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
1 0 4 3 3 7 0 7	ゴミブチ 五味渕 ノリツグ 典嗣	文学部	講師

8. 研究分担者（所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。）

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9.　研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600 字～800 字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ化するため、図、ｸﾞﾗﾌ等は記載しないこと。

本年度（2010 年度）は、研究の離陸期と位置づけ、前年度までに構築した研究環境とこれまでの成果を踏まえた、（1）～（3）の活動を行った。

（1）前年度に引き続き、1930 年代から第 2 次世界大戦期にかけての日本語による文学・文化言説にかかわる資料の集積と分析を行った。特に、日中戦争開戦以後の言論統制・用紙統制にかかる動向に着目、戦時体制下での雑誌編集・単行本出版が、いかなる環境・条件の下で行われていたかについて、資料に即した検討を行った。また、DVD 資料として公刊された改造社資料等を活用し、出版用紙統制の主管官庁たる内閣情報局と、実務を担当した業界団体・日本出版文化協会の活動について研究をすすめ、その成果の一部を公表した。

（2）日中戦争開戦前後の〈転向〉と〈抵抗〉の様相に注目、世界的な反ファシズム運動が日本語の文脈にどのように紹介・移入されたかを検討するため、関連資料の収集と調査を行った。また、夏期休業中には韓国・ソウルへ出張し、「リベラリズム」をめぐる 1930 年代後半の思想的・文学的動向を踏まえて、当時の思想家や文学者・文化人たちの経験を現在の視点から再審する意図で、研究発表を行った。

（3）1930 年代以後、戦時体制期を通じて活躍した文芸批評家・保田與重郎の業績に注目し、出発期の保田が、同時代の文学言説の場でヘゲモニーを獲得していく過程について検討した。また、従来は戦時体制のイデオローグとして評価されてきた保田の第二次大戦期の発言を取り上げ、〈敗北〉を自らの文学の主題としてきた保田が、現実の敗北が切迫する中で、自己にとっての〈戦争〉の位相を変化させていった様相を指摘する研究発表を行った。

10.　キーワード

(1)　近現代日本語文学	(2)　メディア	(3)　言論統制
(4)　自由主義	(5)　デジタル・アーカイヴ	(6)
(7)	(8)	

（裏面に続く）